

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語（その1）

受験番号

一 次の文章を読んで、後の各問いに答えよ。

学問の師は複数かもしれないが、魂の師は一人である。

原理原則を教えてもらう師は求めなければ得られぬ。しかし、求めたからといって、A 得られるとは限らない。そこには、邂逅かいごうによる「奇しき縁えんじ」としか説明できない何かがある。（あ）

邂逅には条件がある。必ず、人生について「問い」をもっていることである。

この人生をいかに生くべきか、という決して簡単に解決できない「問い」を胸中深く秘めての邂逅だからこそ一筋の貫くものがあるだろうし、それが相手にひびくのである。

重ねていう。（い）

親鸞（浄土真宗の開山、『教行信証』の著者）は師の法然（浄土宗の a カイン）との出会いを「遭ひ難くして、今、遭うことを得たり。聞き難くして、今、聞くことを得たり」と表現したが、生涯のどの時期でもいい、自分がさまざまに思い迷っていたとき「その人に逢えてよかった」「その人に逢うことによって開眼かいがんせしめられた」という喜びを抱いている人は大勢いることだろう。（う）

人生は b ショセン、邂逅と c ベツリとに要約されるが、邂逅によって与えられた一筋の光明が人間形成に決定的な影響を与える。B、生涯の師を得た場合においてをやだ。（え）

フランス軍のベルリン d シンニューウという国家的危機に立ち上がり、「ドイツ国民に告ぐ」という演説で有名な哲学者ファイヒテは、若いころ、ライプチヒ大学で神学を専攻したものの、牧師にもなれず、小説を書いたがものにならず、家庭教師の口すらもないひどい状態にあった。

そんなとき、ある大学生からカントの『純粹理性批判』の解説を頼まれたのがきっかけとなり、カント哲学に共鳴したファイヒテは、やがてケーニヒスベルクにこの碩学を訪れた。（お）

C、この e ムメイの貧書生に対するカントの扱いは意外に冷たかった。

発憤したファイヒテは、四週間、不眠不休で大論文を書きあげ、それに次のような手紙を添えて送った。

「尊敬すべき哲学者をお訪ねするのに、その資格があるかどうかも考えずに、突然うかがいましたことは、まことに失礼でございました。それで私は、自分で自分の紹介状とするために、この論文を書きました」

【カントは、／改めてファイヒテを招き、／それがファイヒテの学者への道を開いた／その論文を読んで、／すっかり感銘した】のであった。

カントの冷たいあしらいを怒らず、自分の無資格を反省して発憤したところに、ファイヒテの偉さがあるが、『十八史略』にでてくる老子と孔子との I も、それに似ている。

孔子、焉どこニ問ウ。老子、之ニ告ゲテ曰ク「良賈りやうこハ深ク蔵メテ、虚ナルガ若ク、君子ハ盛徳アリテ、容貌、愚ナルガ若シ、子ノ驕氣きやうきト多欲ト態色たいしきト淫志いんしトヲ去レ。是レ皆、子ノ身ニ益ナシ」ト。

孔子去リテ弟子ていしニ謂イテ曰ク「鳥ハ吾、其ノ能ク飛ブヲ知ル。魚ハ吾、其ノ能ク游グヲ知ル。獸ハ吾、其ノ能ク走ルヲ知ル。走ル者ハ以テ網あみヲ為スベク、游グ者ハ綸りんヲ為スベク、飛ブ者ハ以テ矰そヲ為スベシ。龍ニ至リテハ、吾ハ知ルコト能ワズ、其レ風雲ニ乗ジテ天ニ上ラム。今、老子ヲ見ルニ、其レ猶なほ、龍ノ若キカ」ト。

孔子があるとき、老子に「礼」についてたずねると、「本当に実力のある商人というものは、いい品物ほど奥深く

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語(その2)

受験番号

蔵しまいこんで、店先には並べたてぬものだから、ちよつと見には、いっこうに商品がないみたいに見える。同様に君子と、立派な学徳をそなえた人物ほど、キラキラしたものを表面にあらわさないから、一見、愚おろそのものに見える。孔子は、お前さんもそうならなければいけない。まず驕おご気(自惚れ)と多数(あれもこれもと手をだす)と態色(スタンドプレー)と淫志(物事に淫する、度がすぎる)の四つをとりなさい」と厳しい忠告を与えた。

いかに先輩とはいえ、これだけ頭ごなしにやつつけられたら、ムツときそうなものだが、孔子は直言を虚心に聞いたばかりか、老子を龍にたとえて、「端倪たんげいすべからざる人物」と心の底から舌をまいて拒絶反応ゼロというところが孔子の偉さであろう。

このやりとりから判断すると、若き日の孔子は、才アAア煥BBアで、かなり癖のあった人物と思われる。それが修養を積み重ねるにしたがって、あの『論語』にみられる人生の達人に成長していったのである。

(伊藤肇 『現代の帝王学』)

問一 ―― 部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄 A～C に入る語の組み合わせとして適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① A …… 必ずしも B …… まさに C …… そして
- ② A …… 必ずしも B …… まして C …… ところが
- ③ A …… 少なくとも B …… まるで C …… ところが
- ④ A …… 少なくとも B …… まして C …… だから
- ⑤ A …… まるで B …… まさに C …… だから

問三 本文中の【 】の中の語句を適切に入れ替えて意味の通る一文にしたとき、三番目にくる語句を、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① カントは、
- ② 改めてフィヒテを招き、
- ③ それがフィヒテの学者への道を開いた
- ④ その論文を読んで、
- ⑤ すっかり感銘した

問四 空欄 I に入る語を本文中から二字で抜き出しなさい。

問五 ―― 部 A について、「優れた才能があふれ出るさま」という意味の四字熟語になるよう、A と B に入る漢字をそれぞれ一字で書け。

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語(その3)

受験番号

問六 本文中から次の一文が抜けている。この文が入る最も適切な場所は、本文中の(あ)～(お)のどこか。次の①～⑤から一つ選び、番号で書け。

「問い」をもたぬ邂逅は単なる社交にすぎない。

- ① (あ)
- ② (い)
- ③ (う)
- ④ (え)
- ⑤ (お)

問七 本文の内容と合致しているものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① 学問の師がたくさん必要なように、原理原則を教えてもらう師にたくさん出会わなければならない。
- ② この人生をいかに生くべきか、という問いを抱えた中で法然は親鸞と出会い、思い悩みを乗り越えることができた。
- ③ フィヒテは「ドイツ国民に告ぐ」という演説で有名になった後、カントの『純粹理性批判』に出会い、すぐに弟子となることができた。
- ④ 孔子は実力のある商人だったが、老子のアドバイスを得て君子となり、さらに学徳をそなえた人物になることができた。
- ⑤ 孔子は『論語』にみられるように人生の達人であるが、それは孔子が若い頃、老子の直言を素直に受け入れ、修養を積み重ねた結果である。

三 次の文章を読んで、後の各問いに答えよ。

^aヨキセぬ出来事のおこることを、日常的には偶然という。

それは、コンサートに行ったら、隣の席に座ったのが三十年ぶりに会う小学校時代の同級生だったとか、畦道を歩いていたら落ちていた一万円札を拾ったとかといった、^アたまたま起る現象のことを指す。

偶然を、あえて^bテイギづけるなら、「因果関係に基づいて、ある方向に進行している必然的な事象系列に対して、その系列からは自然発生しない別の事象系列が関与してくる場合、この新たな事象系列を、もとの事象系列から見て偶然と位置づける」ということになる。

アレキサンダー・グラハム・ベル(一八四七～一九二二)は、電話の発明者として世界に名を残した。

ヘレン・ケラー(一八八〇～一九六八)は、「見えない、聞こえない、しゃべれない」の三重苦を克服した。^cキセキの人として世界中に感動を与えた。

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語（その4）

受験番号

だが、この二人のそれぞれの名を知る人は多くても、グラハム・ベルが、六歳だったヘレン・ケラーに初めて会ったのをきっかけとして、彼女にボストンのパーキンズ学院を紹介したり、その後も ^dシンミになって励まし続けたという事実を知る人は少い。

この二人の出会いを果たして全くの I であつたのだろうか。いや、そうではなからう。

エジンバラに生まれたグラハム・ベルの祖父も、そしてまた彼の父も話術の研究者であつた。特に父は、耳や口の不自由な人に話し方を教える「視話法」を考え出した。このような家庭に育つたグラハム・ベルは自然と、言葉や音声そして音楽などに関心を持つようになり、大学でも音声について学び、米国に移住してからは、ボストンで、ろうあ教育に情熱を傾け、ボストン大学の音声生理学の教授になつた。そして音声電信の研究に没頭したグラハム・ベルは、ついに、言葉を電流に乗せて遠方へ送る電話を発明したのである。このように、二人の出会いを エンシユツする II の糸は確かに存在していたのである。

西澤潤一前東北大学学長は、『十年先を読む』発想法』(講談社)の中で、ノーベル賞の対象になつた江崎ダイオードのデータ発表のいきさつを振り返り、「独創的な発明や研究は ^イ首の差「プラス運だ」という趣旨で、こう述べている。

「その頃江崎さんと同じような測定をしていたのが、世界に数人いた。(中略)誰かが、なにか新しいものを見つけるとときには、ほとんど同時に他の人も、同じものを見つけているのである。トップになるかいなかは、ほんとうに首の差である。(中略)

私が尊敬してやまない、名古屋大学の上田良二先生が、『^ウ運のいい人は、偉い人である』とおっしゃつたことがある。

数人が同じ現象に気づいていて、誰かが、なにかの偶然から、その現象を発見したとする。偶然の産物なのだから、別に偉いわけではないのだという人もいるが、私はそうは思わない、と上田先生はいわれる。

普通の人は、実験を繰り返しているうちに、ある奇妙な現象に気づいてはいても、その現象が重要なことであるというのに気づかない。気づいた人は、疑問を大切にあなたためて、説明がつくように解明しているのだから、やはり、偉い人なのである。ほんのわずかな^運を生かしたところに、偉さがあるのだと思う。ほんのちよつとの努力の差しかないのだが、その差が、たいへん巨大な差になるのである」

一九九六年度のノーベル化学賞は、六十の炭素原子でできた球形状の分子(C₆₀)を一九八五年に世界で最初に合成し、有機化学における新分野の発展に多大な貢献をした米ライス大学のロバート・カール教授、リチャード・スモーリー教授、それに英サセックス大学のハロルド・クロフト教授の三氏に授与されることになつた。だが、C₆₀の存在を理論的に最初に予測したのは日本人研究者である。にもかかわらず、受賞者リストに日本人の名を連ねていないのは、せっかくC₆₀の存在を理論的に予測するところまでいっていながら、その重要さに気づき、疑問を大切にあなたためて、説明がつくように解明していくという執念深いフォローアップが不足していたからだとの見方も成り立つ。西澤潤一氏はこうも書いている。

「たいていの発明・発見は、たまたま偶然に変なものができて、あるいは現象がおこつて、あとでそれを理論づけるとするのが大部分だ」と。

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語(その5)

受験番号

私は、成功には運とかツキが必要で、失敗には原因がある、という感覚を持っている。俗に、「運も実力のうち」といわれる。運をよび込むには、ただ手をこまねいていたのではだめで、それなりの基礎体力、すなわち、実力を涵養しておかなければだめだ、という意味であろう。逆に、せっかく巡ってきた好運も、ほんやりしていると逃がしてしまうということだろう。

別の言い方をするなら、運やツキを左右するのは偶然だが、その偶然にしても、全く因果関係のない偶然というのはむしろ稀で、一般に、必然的事象といわれることでも、それは、単独で純粹に実現されるわけではなく、大なり小なり偶然と交錯しながら結果を生み出すということである。

それは、必然が「主」で偶然が「従」ということではない。必然と偶然が一对のペアとなって事象を起すということである。これまで、自然科学は、主に必然的現象を対象にしてきた。偶然に関しては、統計学や確率論が対象として取りあげてきたが、科学の世界において偶然の占める位置は、必然の占める位置に比べて相対的に低かった。偶然の位置を必然の位置と同格にまで引きあげたのは、「混沌からの秩序」という著書を通じて世界にメッセージを流した、I・プリゴジンと、「フラクタル幾何学」のB・マンデルブローである。

(今北純一 『西洋の着想 東洋の着想』)

問一 部 a のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 部ア「たまたま」の品詞は何か。次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① 名詞 ② 副詞 ③ 形容詞 ④ 形容動詞 ⑤ 連体詞

問三 空欄Ⅰに入る語を本文中から二字で抜き出しなさい。

問四 空欄Ⅱに入る語として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① 前後関係 ② 並行関係 ③ 因果関係 ④ 相互関係 ⑤ 包括関係

問五 部イ「首の差」と同じ意味の語句を、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① 桁違い ② 雲泥の差 ③ 表裏一体 ④ 鶏口牛後 ⑤ 紙一重

問六 部ウ「運のいい人は、偉い人である」といえるのはなぜか。その理由を三十字以内で書け。

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語(その6)

受験番号

問七 本文の内容と合致しているものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① ヘレン・ケラーはグラハム・ベルに初めて会ったことをきっかけとして話術の研究を始め、視話法の確立に貢献した。
- ② 西澤潤一前東北大学学長は江崎ダイオードに関連して、独創的な発明や研究は世界で誰も見つけていないことを発見することから始まるとしている。
- ③ 画期的なC60の存在を理論的に最初に予測したのは日本人研究者であり、欧米の研究者とともにノーベル化学賞を受賞した。
- ④ 筆者は成功には運とかツキが必要で、失敗には原因があると感じており、必然と偶然が一对のペアとなつて事象を起すと考えている。
- ⑤ 「混沌からの秩序」を書いたI・プリゴジンと「フラクタル幾何学」のB・マンデルブローにより、必然が「主」で偶然が「従」という理論が確立した。

三 後の各問いに答えよ。

問一 慣用句の使い方が適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① あなたの意見は的を得ている。
- ② こんな大任は私では役不足です。
- ③ 議論が煮詰まって結論が出ない。
- ④ 隣人のミスを他山の石としよう。
- ⑤ 歴史的な大敗後、努力を重ねて雪辱を晴らした。

問二 「ダイバーシティー」の意味として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① 柔軟性
- ② 多様性
- ③ 普遍性
- ④ 海中都市
- ⑤ 近未来都市

令和八年度 函館市医師会看護・リハビリテーション学院
理学療法学科・作業療法学科 道南地域特別奨学入学試験問題

国語（その7）

受験番号

問三 松尾芭蕉の作品として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、番号で書け。

- ① すずめの子そこのけそこのけお馬が通る
- ② 柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺
- ③ 菜の花や月は東に日は西に
- ④ 赤い椿白い椿と落ちにけり
- ⑤ 古池や蛙飛び込む水の音